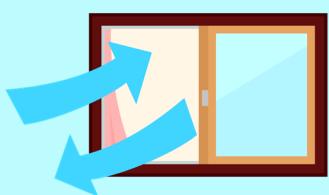
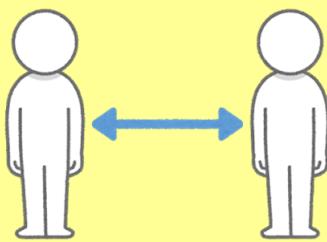


WITH CORONA

こまめに換気



適切な距離をとる



検温で
体調確認



こまめに手洗い・消毒



マスクの着用



社会福祉法人 京都光彩の会

光彩だより

令和2年夏号

◇コロナ禍での各事業所の取り組み紹介
◇新任職員紹介

コロナ禍で想うこと

上村前統括施設長から法人運営のバトンを受け、今年4月より法人統括施設長に就任しました中條了と申します。まだまだおぼつかない舵取りですが、職員と力を合わせて取り組んでいく次第です。

さて、今回の光彩だよりは半年振りの発行となります。この間、コロナウイルス感染症への感染防止に向けて法人内でも様々な対策をとつてきました。幸いなことに今までに利用者、職員への感染はありませんでしたが、再び感染拡大が報じられており、予断を許さない状況が続いています。

この感染症が全国的に拡がりつつあつた今年3月、ある利用者が「ぼくら精神障害者がコロナにかかるても普通の病院には入院させてもらえないかもなあ」とつぶやかれたひと言が頭から離れません。実際に精神疾患のある患者さんが感染症にかかった場合、指定病院での受け入れを断られるケースがあることが新聞でも報じられました。（二〇二〇年六月八日付朝日新聞）。これまでも重度の精神疾患のある方が一般病院での受け入れを断られる例があり、医療現場の課題となつていきました。それが今回のコロナ禍で問題が露呈しました。これは重度の精神障害者の「治療を受けれる権利」はおろか「生きる権利」までが奪われかねない事態です。私たちは行政に対してこの問題への対応策を要望していますが、具体的な対策にはつながっていません。今後も続くと思われるコロナ禍と、精神障害者の生きる権利を守るために声を上げていく必要があります。

社会福祉法人 京都光彩の会

統括施設長 中條 了

コロナ禍での各事業所の取り組み

今年に入り、新型コロナウイルスの出現によって私たちの生活が大きく変化しつつあります。未だに出口が見えず対応を模索しているところですが、その中の事業所の取り組みをご紹介できたらと思います。

緊急事態宣言が発令された
4月以降、法人全体で対応指
針を作成し感染防止策を行つ
てきました。例えば、密にな
りがちな法人事務所について
シートを吊るし飛沫感染を避
ける対策をとりました。ま
た、4月末までは法人
内の横断的な集まりは控え、
事業所間の連絡はインター
ンを沢山、作成しました。

法人全体の取り組み



法人事務所：防護シートの設置

ネット上のグループネットワークで行う形をとりました。
食事面も、時間帯を分ける、席の配置も対面ではなく距離をとつて横並びで座る、食事が終われば速やかに席を離れる、といった密を避ける方法をとっています。

普段ならコミュニケーションをとる立場の職員が、感染リスクを下げるために会話を控えることや距離が近いと離れるよう促すことへの抵抗はあります。感染対策は今後も続きますが、人との距離はあけても心のつながりを保つための工夫が必要です。

京都市朱雀工房



京都市朱雀工房：マスクの作製・販売
大人用立体マスク 1枚500円

感染予防・防止を最大限行なながら、利用者の通所希望が多い為、7月以降は通常通りの利用日数・時間にしていきます。
また、2月頃より布マスクを作製しています。当初はマスク不足で困っている利用者のために作っていましたが、作製メンバーが増え4月以降は外部にも販売しています。ご好評いただいており、現在は「ハートプラザKYOTOぶらり嵐山店」様に大人用、児童用マスクを月に各20枚程度納品させて頂いています。最近ではマスクの仮置きケースも作製しており、販売数は累計100枚を超えていました。事業所でも販売中です！お気軽にお尋ねください。

京都市朱雀工房では職員・利用者の体温チェックを必ず行っています。そして作業開始前と終了時に作業室や廊下等アルコール消毒を行っています。作業室も1日中窓を開け換気を行っています。また、密にならない工夫を行なっておりでパーテーションを沢山、作成しました。

かれん工房では感染症対策として、密を防ぐために①作業時間の変更②食事をする場所と休憩場所を分ける③席に着く際は向かい合わない・間隔を空けて座る④メンバーや通所をローテーションにする⑤在宅訓練の利用に取り組んでいます。これからは時期は暑さ対策も含め、エアコン使用時は部屋が密閉しないよう30分に1度の換気や、熱中症予防についてのレクチャーとポスターの掲示をしています。また、アルコール等必要な備品の備蓄も始め、感染症の再拡大にも備えているところです。

ワークステーション かれん工房



かれん工房：換気お知らせポスターの掲示

西山高原工作所では、職員や利用者へ手指消毒や検温の徹底を進める事はもちろん、ペーパータオルや使い捨て手袋など物品を今後に備えて購入しました。また、三密を防ぐために、作業場や食堂、相談室に市販のパーテーションを設置しました。座る場所や作業時間を指定させていただきました。使用者さんには不便をかけたり、パーテーションな

西山高原工作所



西山高原工作所：作業室にパーテーション設置

グループホームではこの期間、発熱等の症状を訴える方がおられました。入居者の皆さんには極力居室にて過ごしていただくことをお願いし、対応職員を限定、万が一の場合に他の居室に持ち込まないことを第一に努めました。幸いにもPCR検査で陰性の判定があり胸をなでおろしましたが、感染の疑いがある場面ではクラスターの発生も頭をよぎりました。

ど物品の購入に多く出費しました。しかし、利用者さんや職員が安心して西山でお仕事や支援が出来るためには仕方ないことと思いますし、引き続き安心安全な場所や支援を提供してまいります。

グループホーム 賀陽・山ノ内・光

現在は食事の際は換気を行なながら、対面を避け隣り合わせで座つて頂いたり、時間をずらしていくだけです。「先に食べます。」「こうさい」

相談支援事業所 「こうさい」

前例がなく、体温計に始まり、調達できるものをまづそろえました。マスクが底をつきそうになつた時は、薬局の前にも並びました。ビニールを吊るし、仕切りを設けました。

京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」

て」とお互いに声を掛け合います。う姿があるなど、皆さんそれぞれに取り組まれています。

現在は食事の際は換気を行なながら、対面を避け隣り合わせで座つて頂いたり、時間をずらしていくだけです。「先に食べます。」「こうさい」

こころのふれあい 「交流サロン 「なごやかサロン」

家族、関係機関がおられる場合、面接や会議を中心して電話や文書で対応することがあります。実施する場合は、密にならないよう極力広い部屋で行い、同席者の数を限定したり、適度な距離をとつて短時間で終えるよう心がけています。感染防止対策により様々な制定を受け、支援が停滞したり、利用者個々のニーズに応じた支援の実現が難しくなることがあります。対応を模索している状況です。

て」とお互いに声を掛け合います。う姿があるなど、皆さんそれぞれに取り組まれています。感染リスクの高い茶話会、グラースの合唱練習は中止しています。合唱練習は中止していますが、当事者会、話し合い、生活相談は続けています。

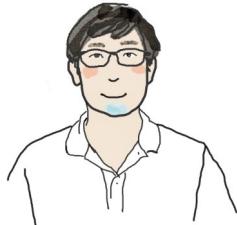


西山高原工作所：休憩室の飛沫感染対策 京都市朱雀工房：マスクの仮置きケース 1つ350円

新任職員紹介



グループホーム賀陽・山ノ内・光 藤井 一幸



初めまして、藤井一幸と申します。以前は別の法人で就労継続支援の事業所で働いていましたが、今回ご縁をいただきグループホームで働かせていただいています。仕事で関わらせていただくすべての方と、共に成長できる、そんな仕事をしていきたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。



グループホーム賀陽・山ノ内・光 松岡 芽以



初めまして。4月に入職しました松岡芽以と申します。この春花園大学を卒業し、グループホームで生活支援員として勤務しております。日々勉強させていただきながら、「その人らしさ」を尊重した支援ができるよう一生懸命頑張ります。どうぞよろしくお願ひいたします。



利用者大募集!!

就労 移行支援 就労 継続支援B型

京都市朱雀工房、西山高原工作所、ワーカステーションかれん工房では上記の利用者様を募集しています。お気軽にご相談ください。

広報委員会 委員

中林 壮介（西山高原工作所）
中條 了（支援センター「なごやか」）
都竹 桃子（ワーカステーションかれん工房）
高橋 恒明（京都市朱雀工房）
中村 美恵（支援センター「なごやか」）
松岡 芽以（グループホーム 賀陽・山ノ内・光）

今回夏号として、各事業所のコロナ対応、事業所の取り組みについて紹介しますが、いかがでしたでしょうか。昨年までした振り返ると、社会も大きく変わり、より一層日々の生活にも大変なことばかりです。経済復興が先か感染症の封じ込めが先か課題が多くあります。実際コロナの影響で下請け作業が少なくなりました。京都市より『工賃補償』など、様々な問題が各事業所に出てきました。幸いなつたり生産品が売れなくなりました。京都五山の送り火も今はこのコロナの影響で縮小され、6個の送り火でした。残念ですが、来年はきれいな送り火が見れますように。

京都光彩の会はこのコロナの影響で、安心安全な事業所を利用する方にとつて、安心安全な場所や変わらない支援を目指し、職員一同知恵を絞り日々笑顔で接していくことを願っています。（中林）

協議会様よりマスクをご寄付して頂きました。ありがとうございました。

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai, Inc.

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地 京都市地域リハビリテーション推進センター1F

TEL : 075-813-0501 FAX : 075-813-0520
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより
発行:京都光彩の会 広報委員会
印刷:西山高原工作所